

## 難病従事者の教育・研修

## - スマートフォンを活用したインターネット調査 -

研究分担者 今井 富裕 札幌医科大学 保健医療学部

研究協力者 津田 笑子 札幌しらかば台病院

## 研究要旨

難病にかかわる従事者（以下、難病従事者）を対象として、スマートフォンを活用したインターネット調査を行なった。多職種の5,000名からアンケート結果が回収され、全国の難病従事者が真に不足していると感じている知識や技術が明らかになった。このアンケート結果から、今後優先的に行なうべき教育や研修の内容が明らかになった。本研究結果は、全国の難病従事者が提供する業務の質をより効率的に向上させ、かつ均霑化するために有用と思われる。

## A. 研究目的

現在難病にかかわっている従事者（以下、難病従事者）はどのような知識・技術が不足していると感じているのか、全国アンケート調査で明らかにする。

象から除外した。

## (倫理面への配慮)

動画制作にあたり、患者が登場する場合は匿名化を行い、個人が特定されないように配慮した。また、本アンケート調査に関する説明と同意はすでに楽天インサイトによって完了している。

## B. 研究方法

2020年6月時点で、楽天仕事パネルに登録している難病従事者を対象として、スマートフォンを活用したインターネット調査を行なった。設問数は、疾患、看護・ケア、リハビリテーション、多職種連携、医療・介護・福祉制度、就労支援、難病相談、災害対策についての19問とした。スクリーニング調査は10,000サンプル以内で行い、本調査として5,000サンプルを回収した。アンケート調査の種別を2段階に分け、スクリーニング調査と本調査を行った。設問数はスクリーニング調査(SC)で3問、本調査で、疾患、看護・ケア、リハビリテーション、多職種連携、医療・介護・福祉制度、就労支援、難病相談、災害対策についての19問とした。サンプル回収数はスクリーニング調査で10,000サンプル以内(看護師5,790名、PT1,614名、OT618名、歯科衛生士581名、ケアマネージャー803名、ホームヘルパー253名等を含む)、本調査で5,000サンプルとした。配信・回収条件を年齢：20歳～79歳、性別：男女問わず、配信地域：全国とし、スクリーニング調査で「現在所属している施設がない」あるいは「難病患者に関わることはない」と回答したサンプルは本調査の対

## C. 研究結果

5,000サンプルは都道府県の人口分布に比例して全国から回収され、難病従事者5,000名の年齢分布は20歳～79歳で、30～40歳が多く、男女比はほぼ1対2であった。「現在所属する施設がない」や「難病患者に関わることはない」と回答したサンプルは含まれていなかった(スクリーニング時に除外した)。職種は看護職が37.1%と最も多く、介護・福祉職が22.5%、リハビリテーション関連職が17.3%の順であった。半分以上の回答者が週1回以上難病患者にかかわっていた。

現在難病従事者が最も不足していると感じているのは、筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病に関する医学的知識のほか、呼吸ケア、栄養ケア、意志伝達支援、リハビリテーションとしての日常生活指導、医療費用に関する制度、災害発生前に準備しておくべく対策に関する知識や技術であった。同時に、難病従事者は難病患者の強い悲嘆や希死念慮への対応に苦慮し、新規患者を受けもった時の多職種連携の難しさを

感じていることが明らかになった。一方で、就労支援に対する意識は低かった。

#### D. 考察

難病医療には多職種の従事者が関わっており、それぞれの職種が提供する業務の質の均霑化が求められている。本研究によって、現在全国の難病従事者が最も必要としている知識や技術が明らかになった。この解析結果に基づいて教育・研修内容に優先順位をつけることによって、より効率的に業務の質を向上させることができると思われる。

#### E. 結論

今後、難病医療従事者に対して、筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病に関する医学的知識、呼吸・栄養ケア、意志伝達支援、日常生活で行えるリハビリテーション、医療費用に関する制度、災害発生前の準備に関する教育や研修を優先的に行なうべきと考えられる。

#### F. 健康危険情報 該当なし

#### G. 研究発表

1. 論文発表 該当なし
2. 学会発表 該当なし

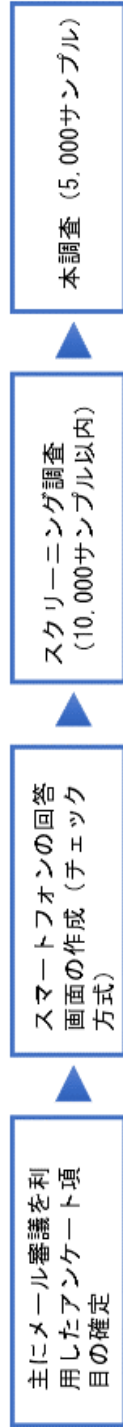
#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 該当なし
2. 実用新案登録 該当なし
3. その他 該当なし

## 難病医療従事者の教育・研修に関する研究 -スマートフォンを活用したインターネット調査

- A. 研究目的**  
現在難病にかかわっている従事者（以下、難病従事者）はどのような知識・技術が不足していると感じているのか、全国アンケート調査で明らかにする。
- B. 研究方法（図1）**  
2020年6月時点で、楽天仕事パネルに登録している難病従事者を対象として、スマートフォンを活用したインターネット調査を行なった。設問数は、疾患、看護・ケア、リハビリテーション、多職種連携、医療・介護・福祉制度、就労支援、難病相談、災害対策についての19問とした。スクリーニング調査は10,000サンプル以内で行い、本調査として5,000サンプルを回収した（図2）。

図1. スマートフォンを活用したインターネット調査のロードマップ



### C. 研究結果

難病従事者5,000名の年齢分布は20歳～79歳で、30～40歳が多く、男女比はほぼ1対2であった。職種は看護職が37.1%と最も多く、介護・福祉職が22.5%、リハビリテーション関連職が17.3%の順であった（図2）。

#### 優先的に実施すべきと思われる教育・研修内容

- ✓ ALS, パーキンソン病
- ✓ 呼吸ケア, 栄養ケア, 意志伝達支援
- ✓ リハビリテーションとしての日常生活指導
- ✓ 新規患者を受けもった時の多職種連携の難しさ
- ✓ 医療費用に関する制度
- ✓ 就労支援に対する低い意識
- ✓ 強い悲嘆や希死念慮への対応
- ✓ 災害発生前に準備しておくべく対策

### D. 考察

難病医療には多職種の従事者が関わっており、それぞれの職種が提供する業務の質の均質化が求められている。本研究によって、現在全国の難病従事者が最も必要としている知識や技術が明らかになった。この解析結果に基づいて教育・研修内容に優先順位をつけることによって、より効率的に業務の質を向上させることができると思われる。

図2. 本調査5000サンプルの職種

SC2現在、あなたが主に従事している職種はどれですか。

職種	n	%	グラフ
看護：看護師、保健師、助産師、看護援助	1853	37.1	
リハビリテーション：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、理学療法士、言語聴覚士、鍼灸師	864	17.3	
薬剤師	481	9.6	
歯科：歯科衛生士、歯科技工士	163	3.3	
臨床工学技師	61	1.2	
栄養：管理栄養士、栄養士	151	3.0	
遺伝カウンセラー	2	0.0	
公認心理師、臨床心理士	0	0.0	
介護：福祉士、ケアマネージャー、ホームヘルパー、ソーシャルワーカー、相談支援従事者、相談支...	1127	22.5	
行政職	9	0.2	
難病診療連携コーディネーター	1	0.0	
難病診療カウンセラー	2	0.0	
その他	286	5.7	